

（AL 関連の実践）【高校/世界史】**「過去・現在・未来」をつなげる多面的な歴史思考力の育成**

石垣裕介（秋田県立本荘高等学校）

森朋子のコメントは最後にあります

対象授業

- ・ **授業**：高校2年生 世界史B
- ・ **生徒数**：理型クラス世界史選択者15名
- ・ **教材**：『詳説世界史B』（山川出版社）
『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）
『新訳 世界史史料・名言集』（江上波夫他監修、山川出版社）
『十字軍—ヨーロッパとイスラム・対立の原点』（ジョルジュ＝タート著、創元社）

第1節 目標**（1） 授業を通して身に付けさせたい力**

異なる資料を多角的に分析・考察することを通して歴史を多面的に理解し、正確に表現する力

複雑化する現在の国際社会では、世界の諸地域における文化の多様性と複合性について、様々な条件をもとにして多角的に考察する力が必要である。そのため、知識量よりも、知識を活用して思考する力、思考したことを他者に対して的確に表現できる力を身に付けさせることを目標として指導している。そしてそれらの力をもとにして、現代社会の諸課題を的確に分析し、未来を主体的に創造していく力を育んでいきたい。

第2節 授業について**（1） 単元**

第Ⅱ部 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 3 西ヨーロッパ中世世界の変容

（2） 単元の目標

1 1～13世紀の西ヨーロッパ世界の形成と変動について、政治・経済・宗教・文化相互の関わりの中で考察し、そのことを通して歴史的事象を多面的に理解する力を身に付ける。

（3） 教材観

使用教科書『詳説世界史B』（山川出版社）では、十字軍について「…聖地イェルサレムを支配下においたセルジューク朝は、ビザンツ帝国をもおびやかしたので、ビザンツ皇帝は教皇に救援を要請した。教皇ウルバヌス2世は1095年クレルモン宗教会議を招集し、聖地回復の聖戦を起こすことを提唱した」とある。キリスト教側の視点から記述されていることが「聖地回復」の言葉からも分かり、正しい行いのように感じてしまう生徒も少なくないと思われるが、十字軍は、実際にはイスラーム教徒に対して無差別な殺戮や略奪を繰り返したとされる。本時は、第1回十字軍について異なる視点から書かれた複数の資料を比較することで、多角的かつ多面的な歴史的思考力を培いたい。資料の読解は、生徒それぞれが役割をもって活動を進められるよう、ジグソー

(【高校/世界史】「過去・現在・未来」をつなげる多面的な歴史思考力の育成 (2019年5月26日掲載 更新なし)

学習の要素を取り入れる。また、異なる資料の読解を最後に組み合わせることで、多面的な見方の中から生徒自身が結論を導き出せるようにしたい。授業の始まりと終わりで同じ問いを考察させ、授業内での成長や変容を実感させるようにする。

(4) キャリア教育の視点

現代の社会で起こっている問題を考察させる手立てとして、十字軍という歴史的事象を用いる。過去の出来事の考察を通して現在を的確に分析し、校標である「右文尚武」の志を持って未来を主体的に切り拓いていく力を身に付けさせたい。

(5) 授業の展開

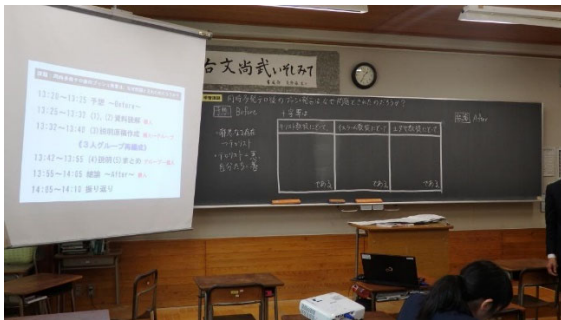
今回の授業では、以下の点を特に意識して授業を進めた。

- ① 予習を前提にして授業を進めること
- ② 同じ学習課題を授業の最初と最後で考察し、授業内での成長や変容を実感させること
- ③ **内化** (個人での活動) → **外化** (グループ等での協働) → **内化** ……の連続とすること
- ④ 最後は、**内化**で終わる (個に落とす) こと

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題設定 (10分)	<p>【予想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートでの予習をもとに、ブッシュ演説が世界中から批判された理由を予想し、発表する。 <p style="text-align: center;">内化 → 外化</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆想定される生徒の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカにキリスト教徒ではない人もいるから。 ・証拠もなく戦争をすると宣言しているようだから。 </div>	
学習課題：同時多発テロ後のブッシュ演説は、なぜ問題とされたのだろうか？			
考察 (15分)	<p>【資料の読解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの資料をもとに十字軍に関する記録について考察し、ワークシートをまとめる。内化 ・グループで共有する。外化 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのグループを作り、3種類の資料を分担する。 <p>A：フランク人(十字軍)の記録</p> <p>B：イスラーム教徒の記録</p> <p>C：ユダヤ教徒の記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を正確に読み取り、的確にまとめているか。(観察) <p>【資料活用の技能】</p>
(10分)	<p>【資料の比較・検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた内容を新たなグループで説明し合い、十字軍に対する異なる3つの立場からの見方について話し合う。外化 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料A～Cのすべてが集まるように新たに3人グループを作る。自分の資料との共通点、相違点を意識して、メモをとりながら聞くよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多角的な視点から関係を考察し、説明できているか。(観察) <p>【思考・判断・表現】</p>

【高校/世界史】「過去・現在・未来」をつなげる多面的な歴史思考力の育成 (2019年5月26日掲載 更新なし)

<p>本時の結論</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題について、再度授業内容を踏まえて文章でまとめる。 <p style="text-align: center;">内化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の記述の中からキーワードを選び、まとめさせる。 	
<p>(15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループで共有し、代表者が全体で発表する。 全体で共有 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の問題を考える際にも、多角的な視点が必要であることに気付かせる。 	



図表1 タイムテーブルの掲示



図表2 グループでの資料読解と共有



図表3 グループワークの発表



図表4 学習課題 (After) の発表

(6) 生徒の変容 上：予想 (before) 下：結論 (after)

予想
この演説は、アメリカ国内のみならず全世界で問題視され、結果的にブッシュ大統領は発言を訂正することとなった。なぜ、この発言は問題とされたのだろうか？

十字軍をアメリカ国民の象徴として挙げてゐるから、戦争を行うことを正当化し、宣言しているから (怒りだと思っている)
・イスラム教徒を絶対悪としているから。

予想
この演説は、アメリカ国内のみならず全世界で問題視され、結果的にブッシュ大統領は発言を訂正することとなった。なぜ、この発言は問題とされたのだろうか？

イスラム教徒に対して、悪い言葉を使って批難するとともに、テロを行った実績だけでなく、イスラム教徒全てを敵にまわすような言い方をしている。

〔高校/世界史〕「過去・現在・未来」をつなげる多面的な歴史思考力の育成 (2019年5月26日掲載 更新なし)

結論 ~After~

アメリカ同時多発テロ後のブッシュ発言は、なぜ問題とされたのだろうか？次のキーワードを使い、「まとめる際の視点」に注意しながらまとめよう。

キーワード【

正義

◆まとめる際の視点

- ①最初に書いた内容と比べて考え方や見方がどのように変わったかを書く。
- ②授業の内容を踏まえて書く。

初めは、実行犯だけでなくイスラム教徒全体を敵としてとらえていると思っていたけれど、ブッシュ大統領は十字軍を正義としてとらえ、つまりキリスト教の視点で見ている。それはイスラム教徒やユダヤ教徒にとっては殺人をしてくるような暴力的な存在を意味するものであり、テロ自体は誰が見ても悪いものだが、十字軍という言葉にはそれぞれの宗教で違いが発生してくるから問題のあるものであった。

結論 ~After~

アメリカ同時多発テロ後のブッシュ発言は、なぜ問題とされたのだろうか？次のキーワードを使い、「まとめる際の視点」に注意しながらまとめよう。

】キーワード【

正義

◆まとめる際の視点

- ①最初に書いた内容と比べて考え方や見方がどのように変わったかを書く。
- ②授業の内容を踏まえて書く。

十字軍はキリスト教徒にとって正義の象徴であるが、イスラム教徒やユダヤ教徒にとっては暴力的な存在である。
→ それぞれの立場から見ると、十字軍は決して正義とは言えないのに、ブッシュ大統領は、キリスト教徒という立場からしかみていることが分かった。イスラム教徒やユダヤ教徒からみると、必ずしも正義ではない。

第3節 成果と課題

(1) 成果

- ・ 客観的かつ多角的な視点から、歴史を「現在」との連続性の中で理解させたいと考えている。今回の授業では、既に有している知識をベースにして、多角的な歴史の見方や学び方について考察させることができた。
- ・ 授業を行う集団の中に良好な関係が構築されていることにより、他者の考えを肯定的に受け入れながら主体的・対話的な学びを進めることができていた。

(2) 課題

- ・ 主体性を引き出しながら授業を進めるために、生徒の発言や意見に応じて想定していた展開を柔軟に組み替えることが必要であった。また、多面性や連続性といった歴史の見方・考え方に気付かせるため、授業全体を誘導しすぎた面があった。森先生からの御指摘にあったように、読解する資料を生徒自身に選択させることなど、「生徒にターンを渡す」ことも必要であった。
- ・ 「個（内化）→協働（外化）→個（内化）」のサイクルは、普段の授業で慣れているためか生徒はスムーズに取り組むことができていた。一方で、活動に慣れていることからか、学習の広がりや深まりが感じられなかったのは残念だった。より思考を深化させるような発問の工夫が必要であった。

森朋子のコメント

- 本当に自然なアクティブラーニングが展開されていました。生徒たちは問いへの解にいろいろなバリエーションがあり、それらを楽しんでいるように見えました。また表情もよかったですね。男女問わず、意見交換できるクラスづくりができていたことがよくわかりました。
- 石垣先生の授業の大きな特徴は、その問いの質にあります。学問という抽象的な世界と、実

（【高校/世界史】「過去・現在・未来」をつなげる多面的な歴史思考力の育成（2019年5月26日掲載 更新なし）

社会という現実を往還する問いです。今回は同時多発テロを引き合いに出し、オーセンティックな文献を用いての活動になりました。アクティブラーニングの主体はもちろん生徒たちですが、問いの質は、まさに教師力が試されるところです。

- 授業は予習先行型。個人で問いの解を予想し、それを用いてアクティブラーニングを行った後、もう一度、その解を捉えなおすという、私が個人的にもとても推奨している知識再構造型のデザインです。そして課題も個人→グループ→個人の流れで学習活動がデザインされています。最後に個人に学びを落とし込んでいるところ、また最後に石垣先生がしっかりとまとめをされる場所はさすがです。
- まとめの際に、授業内容を大学選びというキャリア意識へ結びつけておられたところが印象的です。やはり学習内容と生徒の今の意味世界に結び付けることが一番の理解につながりますね。

プロフィール



- **石垣 裕介（いしがき ゆうすけ）@秋田県立本荘高等学校
（地歴公民科（世界史）**
- 一言：歴史を過去のものとして完結させるのではなく、現在との連続性の中で理解させたいと考えています。そうした見方や考え方ができれば、現代社会の諸課題をより客観的かつ多角的に考察・分析し、未来につなげていくことができます。「未来のために歴史を学ぶ」という視点を持ちながら、今後も指導に取り組んでいきたいと思えます。